中学校 × 社会

社会どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 3項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

3分野をつなぐ分野横断の単元A・Bを設け、Cをまとめ単元に位置付け直す。
地域調査は単元Bで

中学校の社会は、地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元を設ける方向です。単元A「社会へのまなざし」、B「私たちと社会」、C「よりよい社会を目指して」（いずれも仮称）です。地域調査は、主に単元Bでまとめて行う方向です。日本の諸地域の数を減らすなど、内容をしぼる例も示されています。調べる技能に情報の確かさを確かめる力を加え、AIに頼った成果物が通用しない評価の工夫も求められています。

どこが変わる？現行⇔次期（中学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

中学校社会の構成

現行

地理的分野・歴史的分野・
公民的分野の分野別で、教科書も
分野別。地域を題材にした学習
（地域調査を含む）は地理・
歴史それぞれにある。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

3分野をつなぐ**分野横断**の単元と
して、A「**社会へのまなざし
（仮称）**」・B「**私たちと社会
（仮称）**」を新たに設け、まとめの
単元C「**よりよい社会を目指して
（仮称）**」を位置付け直す案。
地域学習は単元Bで地理・歴史の
両面から一体的に扱う方向。

P151 P153 P160

教科目標の柱書

現行

「グローバル化する国際社会に
主体的に生きる平和で民主的な
国家及び社会の形成者」に必要な
資質・能力の育成。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

骨格は小中高共通のまま、**地域・
国・世界**を含めたよりよい社会の
形成をふまえて「グローバル化する
国際社会」の記載を見直す。
「主体的に生きる」も、多様な
他者と「**協働的に**」生きることを
ふまえて見直す。

P144 P148

調べまとめる技能

現行

現行の技能の具体的な書き方は本文に引用されていない（「現行の関連する内容を含め整理・充実する」とだけある）。資料編m4 P206にも同じ要約あり

→

次期（審議まとめの案・告示前）

小中学校は「**確かな**」情報に基づき「**適切かつ**」効果的に調べまとめる技能、高校は「**その妥当性を吟味しながら**」調べまとめる技能。情報の信ぴょう性を確かめる「**情報の妥当性の確認**」に関する技能を新たに位置付ける。

P148 P159

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの中学校の社会の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **社会編**
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

学習指導要領の本文

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

中学校の社会の指導案（試案）



中　社会（歴史的分野）　1年

身近な地域の歴史

本時のねらい 町について語られている話が確かかどうかを、複数の資料の出典や作成目的を確かめながら比べ、どこまで確かめられるかを根拠をもって判断…

指導案を見る →

もっとくわしく

社会の変更点（くわしく）　新旧比較（全校種）　中学校の先生へ

資料室（中学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。